

礼拝メッセージフィードバック

<今日の聖書箇所は…>

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満たしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？

セル ガイド

- ① 祈り、賛美によって主がここにいてくださることを信じ、聖霊様があがめます。
- ② 互いの存在を感謝し、尊敬するところを分かち合しましょう。
- ③ ディポジションの分かち合いをします。
- ④ セルの目的と働きについてみなで共有して、祈り、遣わされて行きましょう。

家族礼拝ガイド

年長のクリスチャンがリードしてください。進め方にはいろいろな意見が出るかもしれませんが、「主に期待する」信仰が最も大切です。いつもの家族のでいいのです。

- ① この1週間で神様はすばらしいと感じたのはどんなこと？
- ② この1週間でお互いにどんなことを感謝しますか？（または誉めたいですか？）1つだけ。
- ③ 聖書のみことばから、どんな実践をして、またどんな恵みがありましたか？
- ④ 互いの必要のために祈りましょう。

デーヴォ ガイド



2021.5.10-16

But **grow** in the grace and knowledge of our Lord and Savior Jesus Christ. To him be glory both now and forever! Amen. II Peter 3:18

L T G ガイド

- ① お互いへの感謝と誉めることを分かち合しましょう。（2～3つ）
- ② 1週間の罪を言い表して悔い改め、互いに祈りましょう。
- ③ 礼拝メッセージの分かち合いをします。
礼拝メッセージの分かち合いが難しい場合はディポジションの分かち合い（なるべく短く）
- ④ 預言の祈り（主の御心を宣言して祈り）をします。

15:13 あなたが贖われたこの民を、あなたは恵みをもって導き、御力をもって、聖なる御住まいに伴われた。

15:14 国々の民は聞いて震え、もだえがペリシテの住民を捕えた。

15:15 そのとき、エドムの首長らは、おじ感い、モアブの有力者らは、震え上がり、カナンの住民は、みな震えおののく。

15:16 恐れとおののきが彼らを襲い、あなたの偉大な御腕により、彼らが石のように黙りますように。主よ。あなたの民が通り過ぎるまで。あなたが買い取られたこの民が通り過ぎるまで。

15:17 あなたは彼らを連れて行き、あなたご自身の山に植えられる。主よ。御住まいのためにあなたがお造りになった場所に。主よ。あなたの御手が堅く建てた聖所に。

15:18 主はとこしえまでも統べ治められる。」

15:19 パロの馬が戦車や騎兵とともに海の中にはいったとき、主は海の水を彼らの上に返されたのであった。しかしイスラエル人は海の真中のかわいた土の上を歩いて行った。

15:20 アロンの姉、女預言者ミリヤムはタンパリンを手に取り、女たちもみなタンパリンを持って、踊りながら彼女について出て来た。

15:21 ミリヤムは人々に答えて歌った。「主に向かって歌え。主は輝かしくも勝利を取められ、馬と乗り手とを海の中に投げ込まれた。」

救いの喜びと感謝を歌にして、賛美することはすばらしいことです。そこに生きる力がわいて来て、

勝利への出発となります。私たちは祈りにおいても、神様をたたえることができます。神様のすばらしさを表すことは、その作品である自分自身とその人生のすばらしさを表すことです。

イスラエルの民は、その救いを喜ぶときに神様への賛美となり、それゆえにあらゆる敵に対する勝利の宣言となっています。私たちも感謝なこと、喜びがあるときには、常に神様に感謝してほめたたえましょう。それによってあらゆることへの勝利の信仰があたえられ、その信仰ゆえに実際に勝利が与えられるのです。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？



15:22 モーセはイスラエルを葦の海から旅立たせた。彼らはシュルの荒野へ出て行き、三日間、荒野を歩いた。彼らには水が見つからなかった。

15:23 彼らはマラにきたが、マラの水は苦くて飲むことができなかった。それで、そこはマラと呼ばれた。

15:24 民はモーセにつぶやいて、「私たちは何を飲んだらよいのですか。」と言った。

15:25 モーセは主に叫んだ。すると、主は彼に一本の木を示されたので、モーセはそれを水に投げ入れた。すると、水は甘くなった。その所で主は彼に、おきてと定めを授け、その所で彼を試みられた。

15:26 そして、仰せられた。「もし、あなたがあなたの神、主の声に確かに聞き従い、主が正しいと見られることを行ない、またその命令に耳を傾け、そのおきてをことごとく守るなら、わたしはエジプトに下したような病気を何一つあなたの上になささない。わたしは主、あなたをいやす者である。」

15:27 こうして彼らはエリムに着いた。そこには、十二の水の泉と七十本のなつめやしの木があった。そこで、彼らはその水のほとりに宿営した。

エジプトから救い出されたイスラエルの民でしたが、さっそく水の問題に直面しました。このつぶさきとは、不平を表すことばです。それは依頼心と批判からくる思いでしょう。教会の問題などに際しても、信仰から来る問題解決と、つぶさきとは違うので、気をつける必要があります。

モーセは指導者として、神様に祈り、神様から答えをもらいました。信仰で人を導くのは、自分の経験や知識によるのではなく、祈りとみこころによる

のです。

26節には神様からの約束があります。それは私たちの人生にとっても同じです。この約束を肝に銘じましょう。従う者には、最後には神様の守りがあるのです。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満たしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？



▶12日 水曜

出エジプト

16:1 ついで、イスラエル人の全会衆は、エリムから旅立ち、エジプトの地を出て、第二の月の十五日に、エリムとシナイとの間にあるシンの荒野にはいった。

16:2 そのとき、イスラエル人の全会衆は、この荒野でモーセとアロンにつぶやいた。

16:3 イスラエル人は彼らに言った。「エジプトの地で、肉なべのそばにすわり、パンを満ち足りるまで食べていたときに、私たちは主の手にかかって死んでいたらよかったのに。事実、あなたがたは、私たちをこの荒野に連れ出して、この全集団を飢え死にさせようとしているのです。」

16:4 主はモーセに仰せられた。「見よ。わたしはあなたがたのために、パンが天から降るようにする。民は外に出て、毎日、一日分を集めなければならない。これは、彼らがわたしのおしえに従って歩むかどうかを、試みるためである。

16:5 六日目に、彼らが持って来た物をととのえる場合、日ごとに集める分の二倍とする。」

16:6 それでモーセとアロンは、すべてのイスラエル人に言った。「夕方には、あなたがたは、主がエジプトの地からあなたがたを連れ出されたことを知り、

16:7 朝には、主の栄光を見る。主に對するあなたがたのつぶやきを主が聞かれたのです。あなたがたが、この私たちにつぶやくとは、いったい私たちは何なのだろう。」

16:8 モーセはまた言った。「夕方には、主があなたがたに食べる肉を与え、朝には満ち足りるほどパンを与えてくださるのは、あなた



がたが主に対してつぶやく、そのつぶやきを主が聞かれたからです。いったい私たちは何なのだろうか。あなたがたのつぶやきは、この私たちに対してではなく、主に對してなのです。」

16:9 モーセはアロンに言った。「イスラエル人の全会衆に、『主の前に近づきなさい。主があなたがたのつぶやきを聞かれたから。』と言いなさい。」

16:10 アロンがイスラエル人の全会衆に告げたとき、彼らは荒野のほうに振り向いた。見よ。主の栄光が雲の中に現われた。

せつかく救い出していただいたのに、「死んでいたらよかったのに。」とは何という言いぐさでしょうか。しかし本心なら、食べ物のごとつぶやいたりしないでしょ。生きたいので、そのようなことを言うのです。また不満ややるせなさを誰かにぶつけたいでしょう。

神様はなぜ、食べ物豊富なところへと導かなかったのでしょうか。それはイスラエルの民の信仰を試し、そして育てるためです。神様によって養われるのだということをつからせるためです。

私たちも同じで、自分の能力でやっとな勘違いしないように、神様は私たちに試練を与えられるのです。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？



▶13日 木曜

出エジプト



16:11 主はモーセに告げて仰せられた。
16:12 「わたしはイスラエル人のつぶやきを聞いた。彼らに告げて言え。『あなたがたは夕暮れには肉を食べ、朝にはパンで満ち足りるであらう。あなたがたはわたしがあなたがたの神、主であることを知るようになる。』」
16:13 それから、夕方になるとうずらが飛んで来て、宿営をおおい、朝になると、宿営の回りに露が一面に降りた。
16:14 その一面の露が上がると、見よ、荒野の面には、地に降りた白い霜のような細かいもの、うるこのような細かいものがあつた。
16:15 イスラエル人はこれを見て、「これは何だろう。」と互いに言った。彼らはそれが何か知らなかったからである。モーセは彼らに言った。「これは主があなたがたに食物として与えてくださったパンです。
16:16 主が命じられたことはこうです。『各自、自分の食べる分だけ、ひとり当たり一オメルずつ、あなたがたの人数に応じてそれを集めよ。各自、自分の天幕にいる者のために、それを取れ。』」
16:17 そこで、イスラエル人はそのとおりにした。ある者は多く、ある者は少なく集めた。
16:18 しかし、彼らがオメルでそれを計ってみると、多く集めた者も余ることはなく、少なく集めた者も足りないことはなかった。各自は自分の食べる分だけ集めたのである。
16:19 モーセは彼らに言った。「だれも、それを、朝まで残しておいてはいけません。」
16:20 彼らはモーセの言うことを聞かず、あ

る者は朝まで、それを残しておいた。すると、それに虫がわき、悪臭を放った。そこでモーセは彼らに向かって怒った。

うずらの後に、パンが地に降りました。このパンはマナと呼ばれたもので、新約においてはイエス様の雛形であり、またみことばの雛形でもあります。イエス様は御自分のことを、天から下ったパンであると表現しておられます。すなわち命のために必要なものであり、永遠の命のために天から来られたということです。

また、人は神のことばによって養われると、イエス様がおっしゃいました。まさに日々の聖書のみことばが、私たちに与えるパンなのです。このみことばは、ためておくことができず、日々いただく必要があります。まさにこのマナを一緒なのです。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？



▶14日 金曜

出エジプト

16:21 彼らは、朝ごとに、各自が食べる分だけ、それを集めた。日が熱くなると、それは溶けた。

16:22 六日目には、彼らは二倍のパン、すなわち、ひとり当たり二オメルずつ集めた。会衆の上に立つ者たちがみな、モーセのところに来て、告げたとき、

16:23 モーセは彼らに言った。「主の語られたことはこうです。『あすは全き休みの日、主の聖なる安息である。あなたがたは、焼きたいものは焼き、煮たいものは煮よ。残ったものは、すべて朝まで保存するため、取っておけ。』」

16:24 それで彼らはモーセの命じたとおりに、それを朝まで取っておいたが、それは臭くもならず、うじもわかかなかった。

16:25 それでモーセは言った。「きょうは、それを食べなさい。きょうは主の安息であるから。きょうはそれを野で見つけることはできません。」

16:26 六日の間はそれを集めることができませぬ。しかし安息の七日目には、それは、ありません。」

16:27 それなのに、民の中のある者は七日目に集めに出た。しかし、何も見つからなかった。

16:28 そのとき、主はモーセに仰せられた。「あなたがたは、いつまでわたしの命令とおしえを守ろうとしないのか。」

16:29 主があなたがたに安息を与えられたことに、心せよ。それゆえ、六日目には、二分のパンをあなたがたに与えている。七日目には、あなたがたはそれぞれ自分の場所にと



どまれ。その所からだれも出てはならない。」

16:30 それで、民は七日目に休んだ。

16:31 イスラエルの家は、それをマナと名づけた。それはコエンドロの種のように、白く、その味は蜜を入れたせんべいのようにあった。

16:32 モーセは言った。「主の命じられたことはこうです。『それを一オメルたつぷり、あなたがたの子孫のために保存せよ。わたしがあなたがたをエジプトの地から連れ出したとき、荒野であなたがたに食べさせたパンを彼らが見ることができたために。』」

16:33 モーセはアロンに言った。「つぼを一つ持って来て、マナを一オメルたつぷりその中に入れ、それを主の前に置いて、あなたがたの子孫のために保存しなさい。」

16:34 主がモーセに命じられたとおりでである。そこでアロンはそれを保存するために、あかしの箱の前に置いた。

16:35 イスラエル人は人の住んでいる地に来るまで、四十年間、マナを食べた。彼らはカナンの地の境に来るまで、マナを食べた。

16:36 一オメルは一エバの十分の一である。

ここでは聖なる安息日のことが表されています。安息日にもパンを集めないと心配な人がいたようです。しかし神様はその日は神様にささげるように命じておられます。聖日に神様に従えない人は他の日にも従えないでしょう。聖日はその神様への信頼と従順を表すものです。

また安息ですから、私たちのたましいの休みでもあります。その日は生活の労苦は神様に預けて、休むべきなのです。そのようなとき、神様はしっかりと生活を守ってくださいます。

それらの子孫に残すように神様は命じられました。なぜならそれはイエス様とみことばを表すからです。主に信頼して命令を守り、その結果安息と祝福を得ましょう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？



▶15日 土曜

出エジプト

17:1 イスラエル人の全会衆は、主の命により、シンの荒野から旅立ち、旅を重ねて、レフィディムで宿営した。そこには民の飲む水がなかった。

17:2 それで、民はモーセと争い、「私たちに飲む水を下さい。」と言った。モーセは彼らに、「あなたがたはなぜ私と争うのですか。なぜ主を試みるのですか。」と言った。

17:3 民はその所で水に渴いた。それで民はモーセにつぶやいて言った。「いったい、なぜ私たちをエジプトから連れ上ったのですか。私や、子どもたちや、家畜を、渴きで死なせるためですか。」

17:4 そこでモーセは主に叫んで言った。「私はこの民をどうすればよいのでしょうか。もう少して私を石で打ち殺そうとしています。」

17:5 主はモーセに仰せられた。「民の前を通り、イスラエルの長老たちを幾人か連れ、あなたがナイルを打ったあの杖を手にとって出て行け。」

17:6 さあ、わたしはあそこのホレブの岩の上で、あなたの前に立とう。あなたがその岩を打つと、岩から水が出る。民はそれを飲む。」そこでモーセはイスラエルの長老たちの目の前で、そのとおりにした。

17:7 それで、彼はその所をマサ、またはメリバと名づけた。それは、イスラエル人が争ったからであり、また彼らが、「主は私たちの中におられるのか、おられないのか。」と言って、主を試みたからである。

イスラエルはモーセに敵対しましたが、それは神への挑戦でした。救いは神様によってもたらされましたから、当然、いつでも神様に（新約時代であ



ば聖書にみことばに)従うべきですが、私たちはしばしば自分勝手な判断や願望に囚われてしまいます。神の權威を否定することは自分の救いを否定することになるのに…。苦しいことがあってもそれは神様に導かれている、栄光へのプロセスです。主とその導きに従いましょう。

モーセに敵対し神に不従順であったイスラエルこそ打たれるべきであったのに、神はその代わりに岩を打つよう命じました。それは十字架の型です。身代の十字架から命の水が流れたのです。また争いの中にも十字架が立てられるときモーセが打たれるのではなく、イエス様が代わりに打たれたあの十字架によって、解決が与えられました。争いによってではなく、十字架で解決を与えられましょう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？



▶16日 日曜

出エジプト

17:8 さて、アマレクが来て、レフィディムでイスラエルと戦った。

17:9 モーセはヨシュアに言った。「私たちのために幾人かを選び、出て行ってアマレクと戦いなさい。あす私は神の杖を手に持って、丘の頂に立ちます。」

17:10 ヨシュアはモーセが言ったとおりにして、アマレクと戦った。モーセとアロンとフルは丘の頂に登った。

17:11 モーセが手を上げているときは、イスラエルが優勢になり、手を降ろしているときは、アマレクが優勢になった。

17:12 しかし、モーセの手が重くなった。彼らは石を取り、それをモーセの足もとに置いたので、モーセはその上に腰掛けた。アロンとフルは、ひとりはこちら側、ひとりはこちら側から、モーセの手をささえた。それで彼の手は日が沈むまで、しっかりそのままであった。

17:13 ヨシュアは、アマレクとその民を剣の刃で打ち破った。

17:14 主はモーセに仰せられた。「このことを記録として、書き物に書きしるし、ヨシュアに読んで聞かせよ。わたしはアマレクの記憶を天の下から完全に消し去ってしまう。」

17:15 モーセは祭壇を築き、それをアドナイ・ニシと呼び、

17:16 「それは『主の御座の上の手』のことで、主は代々にわたってアマレクと戦われる。」と言った。

主イエスは、「世にあっては患難があります」といわれました。私たちは患難と戦う必要があります。ここにその戦い方が教えられています。祈りと実践



です。これらがかみ合っていることが重要です。祈りができなくなると、その祈りをアロンとフルが助けました。このように何としても祈らなければならぬし、また共同体が必要なのです。

主はご自身の民に敵対するものは主の敵としてくださいます。主に従う民には勝利を与えてくださるのです。またそのような主であることを、私たちは伝えなければなりません。主が共にいてくださった歴史を後の人が忘れないためです。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？

